CONSTRUCTION OF SAGA LIGHT SOURCE

T. Tomimasu ^{1,A)}, K. Yoshida^{A)}, S. Koda^{A)} Y. Iwasaki^{A)}, Y.Takabayashi^{A)} H. Ohgaki^{B)}, M. Yasumoto^{C)}

A) SAGA Light Source, 8-7 Yaoigaoka, Tosu, Saga 841-0005

B) IAE, Kyoto University, Gokasho, Kyoto 611-0011,

C) PRI, AIST, Tsukuba 305-8568

Abstract

The SAGA third-generation light source is the first source which is constructed and operated by Japanese local government (Saga Prefecture). The SAGA light source (SAGA-LS) consists of a 250-MeV linac injector and an eight-hold symmetry 1.4-GeV storage ring with eight double-bend (DB) cell and eight 2.93-m long straight sections. The DB structure with a distributed dispersion system was chosen to produce a compact design. The circumference is 75.6 m and the emittance is 15-nm • rad at 1.4 GeV. Six insertion devices including a 7.5-T wiggler can be installed. The critical energies of synchrotron (SR) from the bending magnets and the 7.5-T wiggler are 1.9 keV and 9.8 keV, respectively. The twenty SR beam ports are installed. Total electric power consumption per hour is less than two thousand kW for total system including air-conditioning. The ring magnets, vacuum chambers made of aluminium alloy and temperature controlled cooling systems for the linac accelerator tubes, the ring RF cavity were installed in March 2004. The linac injector, the ring cavity and the control system are installed in July 2004. After RF aging of the linac accelerating tubes and the ring cavity, the commissioning will start in October 2004. We expect that SR light can be seen before the end of 2004 and that the stored beam current and its life time will be 300-mA and 5 hours in 2005.

佐賀県シンクロトロン光源(佐賀LS)の建設-低運転コストの高輝度光源を目指して

1. はじめに

佐賀県立九州シンクロトロン光研究センターの1.4GeV光源(佐賀LS)は、地方自治体である佐賀県が設計し、運転する最初の光源であり、鳥栖市弥生が丘8丁目7番地に建設されている。光源、3本の県有ピームラインとともに平成16年度の共用開始を目指している。

佐賀LS場合、予算と χ° - χ の制約があり、 χ° 0MeVリニアックによる低 χ° 4、一入射蓄積・加速方式を採用している。将来の入射器の活用の一つとして低 χ° 4、一部の χ° 8の8~ χ° 6MeV電子 χ° 4、一本年いて二色(χ° 4~ χ° 7 の赤外自由電子レーザー装置の設置も可能であり、リニアックをリサーキュレータの加速部に利用して χ° 7 のMeV入射器に改造することも可能である。

2. 1.4GeVリングの概要と建設状況

佐賀LSの周長は、既存の1.5GeV級光源の約2/3にした低コスト設計であるが、ビームサイズを小さくして光源輝度を強くするように設計されている。このためリングの長直線部での電子ビームのエネルギー分散を零とせずに、0.3~0.62の有限の値にしている。ビームサイズとエミッタンスは あるエネルギー分散値で最小になる。蓄積電子の最高エネルギーを1.5GeVとせずに1.4GeVにしたのは、施設の消費電力を夏季でも2000kW以下に抑えこんでリングの運転コストを下げるためである。施設の建設費は、建屋が約11億円、光源装置が19.3億円で

ある[1, 2, 3, 4]。

リンケ は周長75.6mの8回対称DB型のテテイスであり、長直線部には6台の挿入光源(2.4m×5、1.5m×1)が設置可能で、ビームポート数は20である。実験ホールには最長38mのビームラインの設置が可能である。電子ビーム・エミッタンスは挿入光源なしで、25nm・rad(目標値は15nm・rad)、7.5Tウイグラーの挿入時には25nm・radに増加する。

電子ビームのサイズ(σ_x , σ_y)は偏向電磁石4度発光点で水平・垂直それぞれ0.18mm、0.12mm(\hbar ップ゚リング10%)、長直線部中央で挿入光源なしで0.58mm、0.13mm、ウイグラー挿入時は0.7mm、0.26mmに増加する。偏向電磁石(ρ =3.2m、B=1.46T)と7.5Tウイグラーからの放射光の臨界エンルギーは、それぞれ1.9keVと9.8keVである。

平成15年9月から12月にはリング室、リニアック室、実験ホールの基準点設置、光源装置の温度制御冷却水装置、1.4GeV リングの電磁石と架台の据付・調整を行った。電磁石の磁場データをもとに軌道安定性も検討されている [5]。16年1月から3月にはリング用アルミ合金製真空槽をアプリベーク後に電磁石に挿入し6月に10⁻¹⁰Torr台の真空度を得ている。リング加速空洞(499.8MHz)と高周波源[6]は6月に設置された。

図1にDCCTを設置した長直線部近くのリング電磁石の配列を示す。リングの電磁石、蓄積ビーム等の主なパラメータは参考文献[1]を参照されたい。

¹ E-mail: tomimasu@saga-ls.jp

3. 250MeVリニアックの概要と建設状況

図2に6MeV入射器側から眺めた250MeV リニアックとエネルギー分析用BT系を示す。

電子リニアックの概略構成図を図3に、リニアックビームの主要 パラメータを表1と表2に示す。電子リニアックの主要部の構 成はFEL研(大阪大学大学院に移管)とほぼ同じであ る。 長寿命 (千時間以上) の熱陰極電子銃からの 600psパルス長で1. 2nC以上の電子バンチを適切な集束レン ズ系により低エミッタンスを保ちながら約10psパルスで 0. 6nCバンチに短バンチ化できる6MeVバンチャー[7]、9μs長 で出力平坦度 0.1%以下の 2856MHz パルス高周波源 〔8〕の他にリング入射時には高エネルギー加速が可能な ように2μsパルス長で、出力平坦度0. 2%以下の2856MHz n°ルλ高周波源を設置している。2μsn°ルλ高周波源に はクライストロンE3712 (2 μ s-88MW) を使用する。使用する進 行波型加速管の長さは2.92mで、filling timeは約1 μςであるからマクロパルス長1μςの電子ビームを加速す るには加速管に2μs長の高周波を供給する必要が ある。毎秒1パルス入射で、1μsパルス中のミクロバンチ数 は22(44.8ns間隔)の多バンチ入射である。

リサーキュレータとしての活用については〔4〕を参照されたい。 χ° クトル幅の狭い電子ビームを加速するには、電子ビームが加速管の中心を通るように、各加速管に供給する高周波の位相を選択する必要がある。 加速管の中心を通すために蛍光板を用いたビーム位置モニタを各加速管の入口に設置している〔9〕。蛍光板には ϕ 2mmの孔が開けられていて、加速管中心に合わせて設置される。各加速管の間には4極電磁石(ゲブレット)と舵取りコイル(χ - χ)設置してビーム位置モニタを見ながら電子ビームが加速管の中心を通るように調整する。

4月から5月には電子入射器からリングまでの電子入射系の各種電磁石と真空計の他にリング長直線部の真空系も立上げた。電子入射器 (2856MHz) の250MeVリニアックとリングの加速空洞 (499.8MHz)、それぞれの高周波源 (E3729, E3712とE3774) は6月末に設置された[6]。7月-9月は電子入射器とリング加速空洞のRFエージングリニアックと入射系のビーム位置モニターと制御系の調整、各種インタロックの整備を行う。9月中旬にはリングへのビーム入射・蓄積を行う。当初の目標は蓄積電流100mAで1/e寿命1時間、最終目標は300mAで1/e寿命5時間である。

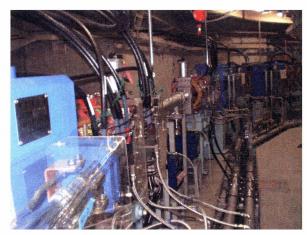


図1. DCCTを設置した長直線部近くのリング電磁石 左手前から偏向電磁石、奥の方向に4極電磁石 (QF1、QD1)6極電磁石、長直線部が並ぶ



図2.6MeV入射器側から眺めた250MeV リニアックとエネル ギー分析用BT系 手前から第1加速管と4極電磁 石、6本の加速管が並ぶ

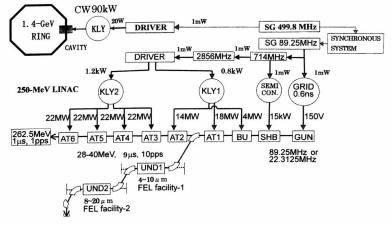


図3. 佐賀電子リニアックと蓄積リングの高周波系

表 1 Main Parameters of the SAGA linac

(EIMAC646B)

36MW

Gun

Thernionic

120 keV
150V-0.6ns pulse
(22.3125MHz or 89.25MHz)
1.2 nC
44.8ns 0r 11.2ns
9μ s
10Hz
Re-entrant type
714MHz
-2000
80kV
Standing wave type
2856MHz
-5MeV for 1MW rf
100keV (FWHM)
e traveling wave type
2.9298m x 6
36MW+88MW

表2 Beam parameters of the SAGA linac
Electron energy at injection
Energy spread(FWHM)
Peak current
Beam radius

Normalized emittance
25x # 10-6 mrad

at application

Beam radius0.5 mmNormalized emittance $25 \text{x} \pi 10^{-6} \text{mrad}$ Micropulse charge0.6 nCMicropulse duration4 ps

Micropulse separation	44.8ns
Macropulse duration	1μ s
Macropulse repetition rate	1Hz
Electron energy at FEL application	on -40MeV
Energy spread(FWHM)	-1 %
Peak current	60A
Beam radius	0.5mm
Normalized emittance	$25x \pi 10^{-6} \text{mrad}$
Micropulse charge	0.6nC
Micropulse duration	6ps
Micropulsr separation	11.2ns
Macropulse duration	9μ s
Macropulse repetition rate	10

辩辩

最後に、光源装置の設計、部品発注の段階から組立て 調整に至るまで、限られた予算におさめるため御協力 頂いた佐賀県庁はじめ参十数社の関係企業の皆様に 厚くお礼申し上げます。

参考文献

- [1] T.Tomimasu, et al.,"The SAGA SYNCHROTRON LIGHT SOURCE IN 2003"Proc.PAC'03 p.902.
- [2] Y.Iwasaki.et al.,"LATTICE DESIGN OF SAGA SYNCHROTRON LIGHT SOURCE"Proc.PAC'03 p.3270.
- [3] H.Ohgaki,et al.,"DESIGN CONTROL SYSTEM FOR SAGA SYNCHROTRON LIGHT SOURCE"Proc.PAC'03 p.2387.
- [4] 冨増多喜夫、江田茂、岩崎能尊、安本正人、木塚俊博、山津善直、光武亨剛、落合裕二. "佐賀県シンクロトロン光応用研究施設電子リニアック2003年(部品発注現状)", Proceedings of the 28th Linear Accelerator Meeting in Japan, URL: http://lam28.tokai.jaeri.go.jp.
- [5] Y. Iwasaki, et al., "Beam-dynamics study based on measured magnets data of SAGA Light Source", Proceedings of the 1th Particle Accelerator Society of Japan Meeting, Funabashi, Aug. 4-6, 2004.
- [6] S. Koda, et al., "Construction of RF cavity system for storage ring at SAGA-LS", Proceedings of the 1th Particle Accelerator Society of Japan Meeting, Funabashi, Aug. 4-6, 2004.
- [7] T. Tomimasu, et al., "Strong focusing system of FELI 6-MeV injector used for ultraviolet range FEL oscillation" Nucl. Instr. Meth. A407(1998),p. 370.
- [8] E. Oshita et al.,"24-MW, 24-μ s PULSE POWER SUPPLYFOR LINAC-BASED FELs"Proc.PAC'95, p. 1608.
- [9] Y. Takabayashi, et al., "Beam profile monitors at SAGA Light Source", Proceedings of the 1th Particle Accelerator Society of Japan Meeting, Funabashi, Aug. 4-6, 2004.